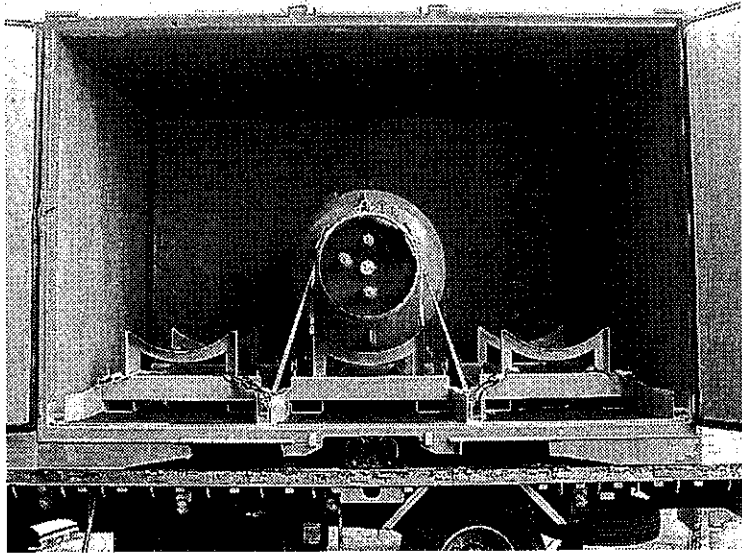


直江津営業所を開設

中央通運

専用治具を開発し、改善した12リットル専用コンテナ



化成品輸送、鉄道にシフト

中央通運(宮入武彦社長、東京都港区)は3月1日から、新潟県上越市の黒井駅郊外に直江津営業所を開設し、本格的に業務を開始する。同地域での化成品メーカーの鉄道輸送業務受託に伴うもので、これまでタンクローリー車で行われていた輸送を、九州や岩手県など3000キロを超える長距離帯を対象に鉄道へ切り替える。年間1万8000トンの輸送量を見込む。

開始当初は私有20リットルコンテナ37個と、1トボンベ3基を積載できるよう改良した12リットルの私有コンテナ20個を投入する。12リットルコンテナは関西化成品輸送(服部三郎社長、大阪市此花区)、NCコーポレーション(古竹孝一社長、高松市)と連携して専用治具を開発し、鉄道でも高品質で運べるよう改善した。荷主から鉄道輸送における環境負荷低減と物流効率化効果、輸送品質の安全性が認められ、今回のモデルシフトが実現。中央通運が全輸送工程で元請けとなり、責任を明確化した点で

も信頼を得た。

同社では、昨年スタートした群馬県高崎市の倉賀野営業所でも、黒字化を達成するなど順調に稼働。月間1500〜1600トンの輸送実績を持ち、ISOタン

クコンテナも開始当初の6個から、リース分も含めて20個を運用するまで拡大している。

中央通運はロジネットジャパンの事業会社で、鉄道輸送関係では関東エリアを

中心に、全15貨物駅での営業体制を整えている。化成品や精密機器といった特殊な鉄道コンテナ輸送に高いノウハウと実績を持つという。

(大沢 瑛美子)